	一般名	報告の概要
223	ホリナートカルシウム	フルオロウラシル・ホリナートカルシウム・レバミゾールの併用療法1135例で、1例が腸管感染症、別の1例が敗血症でそれぞれ死亡した。
224	イコサペント酸エチル	埋め込み型電気除細動器を使用しており持続的心室不整脈を最近発症した患者において、ω3多価不飽和脂肪酸の使用により、一部の患者で不整脈を起こしやすい可能性がある。
225	クエン酸タモキシフェン	乳癌手術後のタモキシフェン投与例において、子宮体癌、異型内膜症増殖症が発現した。
226	ホリナートカルシウム	エピルビシン、シスプラチン、テガフール・ウラシル、ホリナートカルシウムの併用療法に関する臨床試験において、本剤との関連性が否定できない死亡例(肝炎1例、好中球減少1例)が認められた。
227	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	エチニルエストラジオールを含むエストロゲン様化学物質が、胎児マウスの前立腺及び尿道の発生を撹乱する。
228	ディート	イギリス保健省の科学審議委員会からのDEETに関する勧告(英国ではDEET暴露に関する情報が不足しており、副作用報告への監視を継続すること等)が提示された。
229	ホリナートカルシウム	エピルビシン、シスプラチン、テガフール・ウラシル、ホリナートカルシウムの併用療法に関する臨床試験において、本剤との関連性が否定できない死亡例(肝炎1例、好中球減少1例)が認められた。
230	デキサメタゾン	未治療のマントル細胞リンパ腫患者に対して、modified hyper-CVAD(シクロホスファミド、ドキソルビシン、ビンクリスチン、デキサメタゾン)+リツキシマブによる維持療法を行った結果、grade3-4の好中球減少、貧血、血小板減少、感染を認め、うち1例が好中球減少性発熱により死亡した。
231	デキサメタゾン	多発性骨髄腫の高齢患者に対して、メルファラン、デキサメタゾン、サリドマイドの間歇経口投与(MDT療法)を行い有効性及び安全性について評価した結果、grade3-4の顆粒球減少、血小板減少が認められた。また感染による死亡例(1例)が認められた。サリドマイドに関連した深部静脈血栓症、末梢神経障害、便秘、傾眠、振戦、口内乾燥、頭痛も認められた。
232	塩酸ピオグリタゾン	Barrett's carcinoma細胞株を皮下移植したヌードマウスに本剤を投与したところ、細胞増殖促進による腫瘍の成長とアポトーシスの阻害が観察された。In vitroではアポトーシスによる細胞の減少が認められた。
233	塩酸イリノテカン	シスプラチンとの併用例において、投与前血清総ビリルビン値を指標として、グルクロン酸抱合能力の低い患者と好中球減少との間に関連性が認められた。
234	クロラムフェニコール・コリスチン	ICU入室を必要とした感染患者において、コリスチンを静脈投与された者を対象としたレトロスペクティブ調査の結果、腎障害にて8例が死亡した。
235	デキサメタゾン	小児急性リンパ芽球性白血病患者に対して、デキサメタゾンを含む化学療法を実施した結果、化学療法から誘発された毒性による死亡例(4例)が認められた。
236	デキサメタゾン	原発性中枢神経系リンパ腫患者に対して、デキサメタゾンを含む化学療法を実施した結果、9%の患者が主に好中球減少性感染症により死亡した。
237	塩酸イリノテカン	フラボピリドールとの併用例において、投与前血清総ビリルビン値を指標として、グルクロン酸抱合能力の低い患者と好中球減少との間に関連性が認められた。
238	ロスバスタチンカルシウム	ロスバスタチンの体内動態について、SLCO1B1遺伝的多型ごとの層別解析を行った結果、白人においてT521Cホモ接合体を有するグループで本剤の曝露量の増大が認められた。
239	インターフェロン アルファ-2b(遺伝子組換え)	インターフェロン投与後に発症した網膜中心静脈閉塞症2症例。
240	アデノシン三リン酸二ナトリウム	ATP負荷CE-MSCT(Contrast enhanced multislice spiral computed tomography)を受けた患者でST低下と胸部痛が見られた。
241	ブスルファン	骨髄非破壊的前処理による同種幹細胞移植後の長期予後のおける感染症発症に関する前向き研究(162例)において、移植に関連した死亡例11例(感染症による死亡6)認められた。
242	ブスルファン	再発性リンパ腫に対する自家幹細胞移植時のブスルファン・シクロホスファミド静脈内投与前処理を行った46例において、死亡例が認められた。
243	ブスルファン	ブスルファンを含む前処置による骨髄移植を行った家族性血球貪食リンパ球症の治療において、48例の小児患者で19例が死亡した。
244	ケトコナゾール	ラットにケトコナゾールを含むP450阻害剤を腹腔内投与しカタレプシーの潜在的リスクに及ぼす影響を検討した結果、ケトコナゾールはリスペリドンのカタレプシー作用を増大させた。
245	インターフェロン アルファ-2b(遺伝子組換え)	インターフェロン治療後、抗GAD抗体の増加を認めた高齢者糖尿病の1例。

	一般名	報告の概要
246	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSF投与はブレオマイシンを含む化学療法で治療されたホジキン病患者に対する肺毒性を増強する。
247	ブスルファン	原発性中枢神経リンパ腫の全脳放射線療法を行わないチオテパ、ブスルファン、シクロホスファミドの大量投与と自家造血幹細胞移植において、治療関連毒性の死亡例が認められた。
248	ブスルファン	ブスルファン、メルファラン、フルダラビンを前処置として用いたT細胞除去同種造血幹細胞移植による関連死が認められた。
249	ブスルファン	ファンコニー貧血患者における非血縁臍帯血移植法実施の結果、生存率は36%だった(ブスルファンを含む前処置群に死亡例が認められた可能性がある)。
250	ブスルファン	進行型原発性骨髄異形成症候群の小児に対する同種幹細胞移植で、ブスルファン・シクロフォスファミド・メルファランによる前処置を行った85例において、移植関連死18例が認められた。
251	塩化エドロホニウム	夜間性右室流出路起源特発性心室頻拍(RVOT-VT)に罹患している患者5名に対して、アンチレクスを投与したところ5名ともにRVOT-VTが誘発された。
252	ホリナートカルシウム	フルオロウラシル・エトポシド・ホリナートカルシウムによる併用化学療法27例において、発熱性好中球減少に続発した敗血症により1例死亡した。
253	ホリナートカルシウム	オキサリプラチン・イリノテカン・フルオロウラシル・ホリナートカルシウムによる併用化学療法30例において、発熱性好中球減少に続発した真菌感染により1例死亡した。
254	ホリナートカルシウム	ゲフィチニブ・イリノテカン・フルオロウラシル・ホリナートカルシウムによる併用化学療法13例において、敗血症により1例死亡した。
255	ワルファリンカリウム	原発性肺高血圧患者において、高用量エポプロステノールとワルファリンの併用により、肺胞出血リスクが上昇することが示唆された。
256	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
257	メトトレキサート	原発性縦隔大B細胞リンパ腫に対する高用量メトトレキサートによる化学療法28例において、敗血症により1例死亡した。
258	メトトレキサート	高用量CVADとメトトレキサート・シタラビンによる併用療法18例において、真菌感染症による死亡1例、アナフィラキシー反応による死亡1例が認められた。
259	メトトレキサート	高用量メトトレキサート、シタラビン、デキサメタゾン、ビンカアルカロイド、イホスファミド/シクロホスファミドによる化学療法65例において、9%が治療関連死(好中球減少等)が認められ、2例で急性一過性脳症が認められた。
260	メトトレキサート	マントル細胞リンパ腫に対して、リツキシマブ・メトトレキサート併用のCHOP療法後に幹細胞移植を施行した69例のうち、今までのところ、2例が治療関連死した。
261	メトトレキサート	T細胞除去による同種幹細胞移植後のGVHD予防として、シクロスポリン・メトトレキサートを投与したところ、30例中8例が治療関連死した。(拒絶1、GVHD2、心筋梗塞1、感染症4)
262	塩酸ミトキサントロン	濾胞性リンパ腫と診断された患者に対する自己移植と本剤を含む高用量連続化学療法との併用における長期追跡調査(92例、平均62ヶ月)では、完全寛解は88%、骨髄異形成症候群及び二次性白血病が5例見られた。
263	塩酸ミトキサントロン	再発・難治性のCD33＋急性骨髄性白血病(17例)に対するゲムツズマブと中用量のAracytinおよびミトキサントロンとの併用において、2例死亡したほか、腎不全・多臓器障害・静脈閉塞性疾患・感染症が見られた。CRは7例だった。
264	塩酸ミトキサントロン	FND(フルダラビン、ミトキサントロン、デキサメタゾン)、リツキシマブ、インターフェロンによる無症候性リンパ腫治療後に、202例中80でMDSを発症した。
265	塩酸ミトキサントロン	急性骨髄白血病の小児臨床試験において、SR患者(Standard risk群)170例に高用量シタラビン及びミトキサントロンを投与しても、予後は改善しな異事が示唆された。
266	塩酸ミトキサントロン	高リスクびまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する、リツキシマブとdose-dence mega CHOP化学療法及び高用量ミトキサントロン、Ara-C及びデキサメタゾン併用後のBEAM及び自家幹細胞移植で、感染症の発現を認めたが、実施可能かつ有効であると示唆された。
267	塩酸ミトキサントロン	進行期濾胞性リンパ腫の高齢患者に対するFND＋リツキシマブによる短時間に連続した化学一免疫療法の結果、1例が好中球減少性敗血症で死亡した。
268	塩酸ミトキサントロン	急性骨髄性白血病の患者に対し、トポテカン、Ara-C、ミトキサントロンの誘導療法につづけて地固め化学療法を行ったところ、敗血症・多臓器不全、進行性真菌性肺炎，骨髄無形性による死亡例が見られた。
269	塩酸ミトキサントロン	本剤を含む前処置を行った自家移植を併用するリツキシマブ追加の高用量連続化学療法の前向き研究の結果、感染症による死亡例が確認された。

	一般名	報告の概要
270	塩酸ミトキサントロン	マントル細胞リンパ腫に対して、シタラビンおよびミトキサントロン等を使用した高用量化学療法に引き続き自家造血幹細胞支持療法を行ったところ、2例の死亡が見られた。
271	塩酸ミトキサントロン	緩徐進行型リンパ腫患者にミトキサントロンを含む化学療法を行ったところ、75例中13例が死亡した。
272	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロン、ビンブラスチン、ロムスチンで治療したホジキン病の患者670において、死亡2例、骨髄性白血病3例が認められた。
273	ブスルファン	非ホジキンリンパ腫患者43例にRICE(リタキシマブ、イホスファミド、カルボプラチン、エトポシド)治療し、フルダラビン・ブスルファンで前処置後に幹細胞移植を行った結果、GVHDと感染症による死亡例が認められた。
274	ブスルファン	アレムズマブ治療とブスルファンを含む前処置後に移植を行った42例の悪性骨髄腫患者において、3例の死亡が確認された。
275	ブスルファン	ブスルファンを含む前処置後、骨髄同種造血幹細胞移植を行った患者のうち2年以上の生存患者161例を調査した結果、31例が6年の間に死亡した。
276	ブスルファン	急性リンパ球性白血病又は急性骨髄性白血病の患者27例に対し、21例が放射線照射をうけ、4例がブスルファンとサイトキサンを受けた。移植後平均4ヶ月間に18例が死亡した。
277	ブスルファン	全身照射とシクロホスファミド又はブスルファンの併用療法を受けた同種幹細胞移植32例と、フルダラビンの投与を受けた骨髄非破壊的同種幹細胞移植29例との比較研究において、再発率、生存率等は同等であった。それぞれに1例ずつ死亡が認められた。
278	ブスルファン	Thalassemia major治療のためブスルファン・シクロホスファミドによる前処置を受けた骨髄移植患者111例のフォローアップ後（5～254ヶ月）、11例の死亡が認められた。
279	リン酸ヒドロコルチゾンナトリウム	ヒドロコルチゾン投与を受けた乳児は、プラセボ投与群と比較して消化管穿孔の発現率が高かったことが示唆された。
280	インドメタシン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
281	塩酸リトドリン	母体へのリトドリン長期投与により、新生児脳性麻痺のリスクが上昇する。
282	酢酸デキサメタゾン	尋常性天疱瘡患者にデキサメタゾンを静脈内投与すると、重度の心機能障害を引き起こす恐れがある。
283	ディート	ラットにおいて、Malathion、DEET、Permethrinの単独投与または併用投与においては明白な神経毒症状を引き起こさないが、有意に神経行動学的欠損と脳内神経変性の誘発が示唆される。
284	ディート	ラットにおいて、Malathion、DEET、Permethrinの単独投与では運動領に影響を与えないが、併用投与では運動量低下もしくは亢進を引き起こす。
285	ディート	ラットにおいて、DEETの単回もしくは慢性的な経口投与により、運動量の低下もしくは亢進を引き起こす。
286	ディート	ラットにおいて、DEET 、Permethrinの単独または併用の日常的皮膚暴露は、血液脳関門透過性を脳の特定部位において低下させ、感覚運動能を低下させる。
287	ディート	ラットにおいて、DEETの単独もしくは併用の亜慢性皮膚投与により、大脳皮質と海馬にびまん性神経細胞死及び細胞骨格異常をきたし、小脳ではプルキンエ神経単位の損失が起こる。
288	ディート	ラットにおいて、DEET、Pyridostigmine、Permethrin単独投与または併用投与において、神経行動学的欠損、AChE、AChEレセプタ0の特定部位の変性につながることが示唆された。
289	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌患者923例における、イリノテカン・フルオロウラシル・ホリナートカルシウムを含む併用化学療法とベバシズマブを加えた療法との比較において、後者は十分有効且つ安全であることが示唆された。また敗血症、肺水腫、多臓器不全、による死亡が認められた。
290	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン使用と慢性閉塞性肺疾患リスク上昇との関連性が示唆された。
291	イブプロフェン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
292	プランルカスト水和物	小児の通年性アレルギー性鼻炎に対するプラセボを対象とした二重盲検試験において、実薬群とプラセボ群との間に有意な差を認めなかった。
293	ゲフィチニブ	眼瞼形成過程においてEGFR阻害がヘパリン結合性EGF様増殖因子欠損と同様の結果をもたらすか否かを調べるため、ゲフィチニブを胎児期に暴露したところ、胎児の眼瞼形成遅延が認められた。
294	オキサリプラチン	オキサリプラチンの無毒化に関与すると考えられているGSTP1 I105V多型の違い(C/C、T/T又はC/T)が、感覚神経毒性に対する感受性の予測因子として役立つ可能性がある。

	一般名	報告の概要
295	ディート	ラットにおいて、DEET 、Permethrinの単独または併用の日常的皮膚暴露は、血液脳関門透過性を脳の特定部位において低下させ、感覚運動能を低下させる。
296	ディート	ラットにおいて、DEET、Pyridostigmine、Permethrin単独投与または併用投与において、神経行動学的欠損、AChE、AChEレセプタ0の特定部位の変性につながることが示唆された。
297	ディート	ラットにおいて、DEETの単独もしくは併用の亜慢性皮膚投与により、大脳皮質と海馬にびまん性神経細胞死及び細胞骨格異常をきたし、小脳ではプルキンエ神経単位の損失が起こる。
298	ディート	ラットにおいて、Malathion、DEET、Permethrinの単独投与または併用投与においては明白な神経毒症状を引き起こさないが、有意に神経行動学的欠損と脳内神経変性の誘発が示唆される。
299	塩酸イリノテカン	イリノテカンとflavopiridolとの併用において、T-Bil0.7mg/dlを境界として、毒性(好中球減少、下痢等)との相関が見られた。
300	塩酸プラミペキソール水和物	ドパミンアゴニスト(プラミペキソールあるいはロピニロール)使用開始後に病的賭博をきたしたパーキンソン患者11例。
301	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン使用と慢性閉塞性肺疾患リスク上昇との関連性が示唆された。
302	レノグラスチム(遺伝子組換え)	急性骨髄性白血病患者722例の寛解導入療法実施中および・または実施後のG-CSFの使用では，実施後のG-CSF群で重篤な低血圧の頻度が高かった。
303	トリプロピオン酸エストリオール	Million Women Studyの結果解析により、黄体ホルモン併用例、非HRT群と比較してエストロゲン単独投与で子宮内膜癌の危険性が増大することが確認された。
304	塩酸ミトキサントロン	シタラビン、エトポシド・シクロホスファミド、Diaziquone・ミトキサントロンの3コースを施行した156例中3例に感染症による死亡が認められた。
305	イブプロフェン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
306	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
307	ホスフェストロール	ジエチルスチルベストロールとそのC3－C4二重結合が水酸化されたHexestrolは発がん物質である。
308	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン使用と慢性閉塞性肺疾患リスク上昇との関連性が示唆された。
309	ディート	ラットにおいて、Malathion、DEET、Permethrinの単独投与では運動領に影響を与えないが、併用投与では運動量低下もしくは亢進を引き起こす。
310	ディート	ラットにおいて、DEETの単回もしくは慢性的な経口投与により、運動量の低下もしくは亢進を引き起こす。
311	ディート	イギリス保健省の科学審議委員会からのDEETに関する勧告(英国ではDEET暴露に関する情報が不足しており、副作用報告への監視を継続すること等)が提示された。
312	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害剤及びスタチン系薬剤使用者では、動脈瘤性クモ膜下出血後の血管痙攣リスクが上昇することが示唆された。
313	マレイン酸フルボキサミン	選択的セロトニン再取り込み阻害剤及びスタチン系薬剤使用者では、動脈瘤性クモ膜下出血後の血管痙攣リスクが上昇することが示唆された。
314	トラフェルミン(遺伝子組換え)	浸潤先進部の癌細胞で過剰発現するFGF-2が線維芽細胞の増殖、癌細胞の浸潤・増殖に及ぼす影響をin vitroで検討した結果、高度浸潤性の扁平上皮癌細胞ほど多くのFGF-2を算出し、autocrineに作用して浸潤・増殖を促進する。
315	イブプロフェン含有製剤	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
316	フェノフィブラート	HIV陽性患者に対するフェノフィブラート単独投与は、血清HDLコレステロールを上昇させたが、HIV陽性患者及び糖尿病患者におけるフェノフィブラートとロシグリタゾンの併用療法では、血清HDLコレステロールを低下させた。
317	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌におけるフルオロウラシル、ホリナートカルシウム、イリノテカン併用ゲフィチニブの療法において12例中1例において、敗血症による死亡が認められた。
318	インターフェロン　アルファ－2b(遺伝子組換え)	インターフェロンα誘発性溶血性尿毒症症候群の1例。
319	イブプロフェン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。

	一般名	報告の概要
320	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンは乳がん患者における治療後白血病だけでなく骨髄異形成症候群の危険因子であることが示唆された。
321	イオジキサノール	イオジキサノールとイオベルソルの冠血管造影時の腎機能への影響を比較した市販後の臨床試験において、N－アセチルシステイン使用患者で腎毒性が高頻度で認められた。
322	デキサメタゾン	治療歴のある再発性多発性骨髄腫患者に対して、ボルテゾミブ急速静注または高用量デキサメタゾン経口投与による有効性、安全性を比較した結果、grade4の副作用として高血糖、敗血症、敗血性ショック、呼吸不全、腎不全、脳血管発作、肺塞栓症、精神障害が発現した。
323	イブプロフェン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
324	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
325	オキサプロジン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
326	インフルエンザHAワクチン	インフルエンザワクチンとCYP3A4により代謝を受ける薬剤との相互作用(3A4阻害によるクリアランス低下)が示唆された。
327	ナプロキセン	レトロスペクティブコホート試験の結果、高齢のうっ血性心不全患者において、NSAIDまたはロフェコキシブの処方は、セレコキシブ処方に比べて死亡リスクが有意に高かった。
328	ナプロキセン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
329	プラバスタチンナトリウム	選択的セロトニン再取り込み阻害剤及びスタチン系薬剤使用者では、動脈瘤性クモ膜下出血後の血管痙攣リスクが上昇することが示唆された。
330	レノグラスチム(遺伝子組換え)	再生不良性貧血患者でG-CSF治療後、Monosomy7を伴う骨髄異形成症候群が発生した。
331	アセトアミノフェン	アセトアミノフェン中毒患者において、劇症肝炎及び死亡のリスクファクターとして年齢が及ぼす影響を検討した結果、年齢が40歳以上であることがリスク増大に関連することが認められた。
332	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
333	インドメタシン	症例対照研究の結果、インドメタシンとステロイドの同時投与により超低出生体重児における腸管穿孔のリスク上昇が認められた。
334	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬の2年以上の長期服用は、自然流産のリスクを上昇させる。
335	パミドロン酸二ナトリウム、ゾレドロン酸水輪物	抜歯等の歯科処置の既往があると、顎骨壊死のリスクが上昇する。ビスホスフォネートの半減期は数年におよび、癌患者における顎骨壊死(ONJ)の治療法やビスホスフォネートの治療器間の同定などについてさらなる調査が必要である。
336	フェノフィブラート	HIV陽性患者に対するフェノフィブラート単独投与は、血清HDLコレステロールを上昇させたが、HIV陽性患者及び糖尿病患者におけるフェノフィブラートとロシグリタゾンの併用療法では、血清HDLコレステロールを低下させた。
337	ホリナートカルシウム	未治療の進行性胆管癌に対するフルオロウラシル・エトポシド・ホリナートカルシウム療法とエピルビシン・シスプラチン・フルオロウラシル療法の比較において、前者は後者に比べて生存率を改善しないが急性毒性の発現率は低かった。
338	ホスフェストロール	M1h1が欠損したネズミに対するdiethylstilbestrol(DES)の影響とリンパ腫形成について検討した結果、M1h1欠損とDES暴露が組み合わさるとリンパ腫を形成しやすくなることが分った。
339	ケトコナゾール	モルモットにおけるパクリタキセル及びその代謝物の胆汁排泄に対するケトコナゾール併用の影響について検討した結果、ケトコナゾール併用によりパクリタキセル及びその代謝物の累積胆汁排泄率が低下した。
340	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	心臓外科手術後、患者の神経筋遮断作用が延長した2症例。
341	イブプロフェン	NSAIDsと急性尿閉のリスクとの関連性が示唆された。
342	アザチオプリン	造血幹細胞移植を受けた患者では、アザチオプリンを含む長期免疫抑制療法が皮膚、口腔粘膜等の扁平上皮癌の重大なリスク因子である。
343	テガフール・ウラシル	テガフール・ウラシルとイリノテカンとの併用32例において、グレード5の白血球減少、好中球減少が認められた。
344	インドメタシン	早産の際の陣痛抑制を目的としてインドメタシンを母体に投与することにより、新生児における脳室内出血の発症リスクが上昇することが示唆された。

	一般名	報告の概要
345	デキサメタゾン	ステロイドパルス療法によって、心臓の生理学的障害の可能性が増加する。
346	アロプリノール	アロプリノールにより重篤な皮膚副作用が発現した患者51名とコントロール群253名について、HLA-B*5801は前者で全員に後者で39名に認められた。
347	塩酸ミトキサントロン	ミトキサントロンを使用した臨床試験42例において、2年間で12例の死亡（静脈閉塞性疾患、感染症、進行/再発、うっ血性心不全、AML）が認められた。
348	塩酸ピラルビシン	後期高齢者初発diffuse large B cell lymphomaに対するCHOPまたはTHP-COPレジメンとリツキシマブ併用投与の効果と安全性について、有意差は認められなかった。骨髄抑制、注入部位反応が認められた。
349	塩酸ダウノルビシン	G3139・シタラビン・ダウノルビシンとG3139・シタラビンとの比較試験の結果、本剤を含む療法では腎障害、不整脈等の副作用が認められた。
350	フェノバルビタール	フェノバルビタールへの出生前暴露は、胎児異常の有意なリスク増加に関連している。
351	塩酸セレギリン	ラットを用いたin vivo試験の結果、セレギリンとトルブタミドの併用により、トルブタミドの血糖低下作用が増強された。
352	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤（1）	フェノバルビタールを含む抗けいれん薬、抗てんかん薬を妊娠第一期に子宮内暴露した場合、奇形を有する新生児の出生リスクが増加する。
353	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤（1）	フェノバルビタールを妊娠第一期に子宮内暴露した場合、心奇形を有する新生児の出生リスクが増加する。
354	ブスルファン	ブスルファンを含む可能性がある対照群に死亡例が認められた.
355	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対する第一治療としてのフルオロウラシル、ホリナートカルシウム併用ベバシズマブに関する臨床試験において、60日以内の死亡が5例認められた。FU/LV/BV療法はIFLと同様の効果があり安全性も認められる。
356	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	レシピエントがvCJDに感染した場合、当該レシピエントに血液を提供したドナーが感染源である可能性をベイズの定理を用いて評価する方法を検討した。
357	塩酸モルヒネ	ST上昇の認められない急性冠動脈症候群患者では、モルヒネ投与により死亡率が増加する可能性がある。
358	クロルプロマジン・プロメタジン配合剤（1）	フェノバルビタールを妊娠第一期に子宮内暴露した場合、心奇形を有する新生児の出生リスクが増加する。
359	塩酸テトラカイン	高濃度のテトラカインをウサギのくも膜下腔に投与した結果、神経根進入部にある希突起膠細胞により形成される髄鞘を選択的に損傷した。
360	BCG膀胱内用（日本株）	BCG膀胱内注入後に見られたライター症候群6例中5症例はHLA-B27陰性であった。
361	ブスルファン	幹細胞移植前処置としてブスルファンを含む比較臨床試験において、移植関連死（VOD、出血、ARDS、敗血症）が認められた。
362	ブスルファン	ブスルファンを含む幹細胞移植前処置群に再発および感染症による死亡例が確認された。フルダラビンとブスルファンの単回静脈注射は、高齢者患者やハイリスク患者に適応可能である事が示唆された。
363	ブスルファン	フルダラビンとブスルファンを用いた幹細胞移植前処置を受けた患者群で死亡例が確認された。シクロフォスファミドに比べて毒性やGVHD発症が低い。
364	ブスルファン	多発性骨髄腫におけるメルファランとブスルファンを含む幹細胞移植前処置との比較したところ、毒性や生存期間について大きな差はみられなかったが、ブスルファンを含む療法で感染および肝中心静脈閉塞による死亡が確認された。
365	ブスルファン	自家幹細胞移植前処置として，ブスルファンとシクロフォスファミドによる療法の有用性と毒性を調査したところ、肝中心静脈閉塞症と敗血症による死亡が認められた。
366	アスパルテーム	ラットを用いたin vivo試験の結果、アスパルテームがリンパ腫及び白血病を誘発する可能性が示唆された。
367	ケトプロフェン	COX-2阻害剤のみならず非選択的NSAIDsも急性心筋梗塞のリスク増大をもたらす可能性が示唆された。
368	ケトプロフェン	COX-2阻害剤のみならずノンアスピリンNSAIDsも急性心筋梗塞のリスク増大をもたらす可能性が示唆された。
369	リン酸オセルタミビル	一歳未満のインフルエンザ患者へのリン酸オセルタミビル及びアマンタジンの投与状況について。小児に適用のないアマンタジンが使われている例があった。リン酸オセルタミビル・アマンタジン投与例でそれぞれ1例ずつ有害事象が認められた。
370	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
371	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するイリノテカン、フルオロウラシル、ホリナートカルシウム併用オキサリプラチンに関する臨床試験において、28例中1例が真菌感染症により死亡した。

	一般名	報告の概要
372	ホリナートカルシウム	オキサリプラチン又はイリノテカン+レボホリナート+フルオロウラシル併用療法274例において重篤な下痢はオキサリプラチンを含む療法で少なかった。治療関連死として下痢3、心筋梗塞1、胃出血1が認められた。
373	ホリナートカルシウム	全身化学療法にフルオロウラシルを含むレジメンの局所化学療法を加えることの有意性は認められなかった。フルオロウラシル・ホリナートカルシウム又はフルオロウラシル・レバミゾールのいずれかの療法においてparietal出血による死亡が1例認められた。
374	ホリナートカルシウム	フルオロウラシル・ホリナートカルシウムとプラセボ又はベバシズマブの2群間比較試験において、関連性が否定できない死亡例(下痢、白血球減少症、心不全、敗血症、呼吸不全、肺梗塞、心筋梗塞)が報告された。
375	塩酸バンコマイシン	塩酸バンコマイシン散の併用によりジゴキシンの血中濃度が上昇した。
376	アモキシシリン	体外受精のため卵子を取り出した後の患者に感染予防としてアモキシシリン・クラブラン酸を投与した群と、非投与群との比較において、妊娠失敗率は非投与群の方が低かった。
377	アモキシシリン	肝毒性を発現した患者80例のうち薬剤によると疑われる症例は35例あり、アモキシシリン・クラブラン酸が4例、チクロピジンとアトルバスタチンがそれぞれ3例であった。
378	デソゲストレル・エチニルエストラジオール	低用量配合経口避妊薬の使用は、心動脈及び脳動脈疾患のリスクを有意に増大させた。
379	インドメタシン	COX-2阻害剤のみならずノンアスピリンNSAIDsも急性心筋梗塞のリスク増大をもたらす可能性が示唆された。
380	クエン酸シルデナフィル	シルデナフィルとボセンタンとの併用が、シルデナフィルの血漿中濃度を低下させる。
381	デキサメタゾン	DNA損傷を伴う薬剤と関連性を有する古典的(典型的)骨髄異形成症候群は、リツキシマブ併用/非併用によるフルダラビン、ミトキサントロン、デキサメタゾン(FND)療法に続発し得る。
382	セファゾリンナトリウム	手術部位感染の危険因子の検討で、単変量解析及び多変量解析によりセファゾリンとの因果関係が示唆された。
383	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
384	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者に対するフルオロウラシル・ホリナートカルシウムを併用したベバシズマブとプラセボの比較試験において、ベバシズマブ群で無増悪期間の改善が見られた。ベバシズマブ群で1例、プラセボ群で9例の死亡が認められた。
385	シクロホスファミド	シクロホスファミドとフェニトインの併用投与により、シクロホスファミドのAUCは低下し、活性代謝物のAUCが51%、Cmaxが6倍上昇した。
386	アセトアミノフェン	In vitro試験の結果、アセトアミノフェンとジクロフェナク併用による血小板機能低下に対する相乗作用、アセトアミノフェン単独による血小板機能低下が示唆された。
387	ロキソプロフェンナトリウム	NSAIDsと急性尿閉のリスクとの関連性が示唆された。
388	デキサメタゾン	多発性骨髄腫患者に対して、サリドマイド、デキサメタゾン(Thal-dex)またはビンクリスチン、ドキソルビシン、デキサメタゾン(VAD)を投与した結果、Thal-dex群で深在性静脈血栓症、肺塞栓症、便秘、感染、ニューロパシーが、VAD群で深在性静脈血栓症、顆粒球減少、便秘、感染、ニューロパシー、うっ血性心不全が認められた。
389	非ピリン系感冒剤(2)	非ステロイド系解熱鎮痛剤投与による薬剤性肺炎の例。
390	ジアゼパム	ジアゼパム直腸ゲル剤によると考えられる9例の呼吸系有害事象と3例の死亡例の報告。
391	塩酸チクロピジン	ステント留置患者におけるチクロピジン投与後の検査異常値の発現頻度は添付文書記載の発現頻度より高率だった。
392	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬服用と血栓症のリスクとの関連性が示唆された。
393	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	川崎病またはその疑いでガンマグロブリン2g/kg/dayの大量療法を施行し、経過を追跡し得た99人について低体温の発現率が34.3%と従来の報告に比べて高率であった。
394	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンと非ホジキンリンパ腫のリスク上昇との関連性が示唆された。
395	塩酸プソイドエフェドリン	プソイドエフェドリンにより脳内出血をきたした1例。
396	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	当該医薬品に含まれる成分について、癌その他重大な副作用(乳癌、子宮頚癌、肝癌)が発生する恐れがある。
397	レボノルゲストレル・エチニルエストラジオール	当該医薬品に含まれる成分について、癌その他重大な副作用(乳癌、子宮頚癌、肝癌)が発生する恐れがある。

	一般名	報告の概要
398	非ピリン系感冒剤(2)	アセトアミノフェン投与患者において、高アニオンギャップ性代謝性アドーシスが発現し、その後死亡した。
399	塩酸パロキセチン水和物	妊娠1ヶ月から3ヶ月の間にパロキセチンを服用した女性の出生児において、臍帯ヘルニア発現リスクが高い。
400	メトトレキサート	浸潤性膀胱癌に対するMVAC46例及びMVAC＋放射線療法56例において、後者でMRSA髄膜炎による敗血症で1例死亡が認められた。
401	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンと非ホジキンリンパ腫のリスク上昇との関連性が示唆された。
402	フェノバルビタール	妊娠中にフェノバルビタールを投与されていた妊婦から出生した児において奇形(口唇裂、口蓋裂等)を有することが、非投与患者に比べて多かった。
403	フェノバルビタール	妊娠中に母親が抗てんかん薬の治療を受けていた小児において、心欠損をきたした例。
404	フェノバルビタール	フェノバルビタールを妊娠第一期に子宮内暴露した場合、心奇形を有する新生児の出生リスクが増加する。
405	ボセンタン水和物	ボセンタンとリファンピシンとの併用において、ボセンタン及びその代謝物の平均血中濃度が低下した。
406	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	川崎病またはその疑いでガンマグロブリン2g/kg/dayの大量療法を施行し、経過を追跡し得た99人について低体温の発現率が34.3%と従来の報告に比べて高率であった。
407	ホリナートカルシウム	転移性結腸癌患者に1コース目FOLFOX4、2コース目以降IFOXを施行したところ、68例中1例が大腸菌性敗血症により死亡した。
408	塩酸モルヒネ	非ST上昇急性冠動脈症候群患者の胸痛にモルヒネを投与することにより、死亡の危険性が増加する。
409	イブプロフェン	ヒドロコルチゾン投与を受けた乳児は、プラセボ投与群と比較して消化管穿孔の発現率が高かったことが示唆された。
410	イブプロフェン	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
411	アテノロール	オレンジジュースとアテノロールの併用により、アテノロールの消化管吸収が阻害された結果、Cmax、AUCが低下した。
412	ジソピラミド	ラットにおいて、ミコナゾールはジソピラミドの消失クリアランスのみに影響を及ぼし薬理効果を増強した。
413	リスペリドン	P糖タンパク質阻害剤ベラパミルとリスペリドンの併用により、リスペリドンの血中濃度が上昇した。
414	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsと急性心筋梗塞発症リスクとの関連性が示唆された。
415	カルバマゼピン	抗てんかん薬の子宮内暴露による胎児の先天異常、発達遅延、死亡の報告。
416	硫酸マグネシウム・ブドウ糖	腹部疝痛の緩和目的で硫酸マグネシウムを投与後、心肺停止をきたした1例。
417	乾燥弱毒生麻しんワクチン	米国、タイ、カナダ、中国、韓国、スペインのブタから収集された全154血清検体のうち66.2%(102/154)でブタTT Virus (ブタTTV) DNAが検出された。各国間および国内の各地域間において陽性率に相違が見られたが、異なった地域で単離されたものであっても 86-100%ヌクレオチド配列の相同性があることが判明した。また、今回の研究で単離されたTTVは日本で単離されたプロトタイプのブタTTVであるSd-TTV31とは90-97%の相同性が見られている。
418	胎盤性性腺刺激ホルモン	オランダで初のvCJD症例が報告された。本剤の原材料であるヒト尿は現在中国で採取したものを使用しているが、約3年前までは一部オランダで採取した尿を原料としていた。
419	インフルエンザHAワクチン	日本においてトリインフルエンザH5N2亜型が確認された。
420	鼻づまり改善薬	本剤によると思われるアナフィラキシーショックを生じた一例。
421	薬用化粧品	セバメドUVマイルドミルクによる接触性皮膚炎の1例。